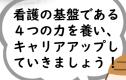


# 愛媛県立病院看護職員 研修新聞 第20巻 第2号



- I. 合同研修報告 「入退院支援」 「人材育成 I」 「看護倫理 I」 「中堅看護職員研修」
- 2. 研修後の看護実践 その①看護研究
- 3. 下半期研修のご案内





公務員として行動する力 看護専門職として行動す る力

異立今治療院

### 看護実践能力

ニーズをとらえる力 ケアする力 協働する力 意思決定を支える力

県立病院 キャリアラダー 4つの力

#### 組織的役割遂行能力

チームを運営する力 教え育む 想像し改善する力

#### 自己教育・研究

未来に向けて学ぶ力 経験から学ぶ力 セルフコントロール

# 1. 合同研修報告

#### ラダーⅡトライ「入退院支援」

上智大学総合人間科学部看護学科 教授 坂井志麻 先生

施設間連携のポイント

- ・本人の意向をつなぐ
- ・疾患・生活情報をつなぐ
- ・支援者情報をつなぐ
- ・日ごろからの関係づくり

研修では、病棟看護師が実践する退院支援について、支援の必要な 患者への早期介入のためのカンファレンスについて、事例をもとに グループワークしながら学んでいきました。

講師は、患者を「**生活者としてとらえる**」ことが大事であると語られました。

#### 退院支援とは、

- ・患者本人が今後どのような治療や療養支援を受けたいか、病いや 生涯をもちながらもどのように生活したいか、希望と現実をすり 合わせながら自己決定するための支援のプロセスである。
- ・高齢者はこれまで生きてきた長い生活史があり、その過程で築き上げてきた生活スタイルがある。看護師はそのような人々の多様な価値観を尊重し、老いや病いを抱えながら地域社会で生活し続ける人々の暮らし方を理解して、高齢者の個別のニーズに合わせた支援を行っていく必要がある。

### ラダーⅡトライ「人材育成Ⅰ(教育技法)」

『これから教師になる若い人が、「自分には何もできないけれど、教育への愛がある、真心があり、それだけでやっていくんだ」とよくいいます。そこらへんは不安です。熱心と愛情、それだけでやれることは、教育の世界にはない。』これは、研修の中で講師が紹介された大村はま\*の言葉です。\*大村はま(2004)「灯し続けることば」小学館,pp.22-23

研修では、教育方法についてのさまざまな手法を学びました。 人材育成には熱心さと愛情も必要ですが、成人学習の特徴を 理解し、様々な教育技法を使いながら学習させることが必要 なのですね。

最後に、研修の学びを指導現場で活用していくために、研修の振り返りを行いました。研修後は「おもしろかった」「勉強になった」ではなく、「これを取り入れよう」と考えることが行動変容につながり、教育効果を得る

ことになると言われていました。

#### 講師:

愛媛大学教育·学生支援機構教育企画室教授中井俊樹 先生



### ラダーIIIトライ「看護倫理 I」

研修のテーマ:倫理的問題から看護の在り方を見直す 研修では、看護倫理について、倫理的問題の解きほぐし方 を学びました。

#### 【看護倫理の思考と実践のプロセス】

プロセス1.目の前で起こっていることにモヤモヤを感じる 本当にこれでいいのだろうかと<mark>立ち止まって考える</mark>こと プロセス2. モヤモヤを言葉で表現する

もやもやの正体を表現するには、自分の思いをみつめて みることから始まる

プロセス3.倫理的問題を分析する

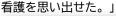
看護師だけでなく関係している他の専門職とともに行う

プロセス4.倫理的問題に取り組む

対応策についてチームで取り組む

#### 研修後のアンケート

「業務の中で立ち止まりやり過ごさないこと、今一度身に 沁みました。自分は立ち止まることができる医療者であり たいと思います。」「日々の看護の中で様々なモヤモヤが あったが、それを紐解くきっかけになった。優しい暖かい





中央病院 がん看護専門看護師 武田千津 先生

## 「中堅看護職員研修」

目的:新規採用看護職員として、県立病院の理念と組織を理解し、看護専門職業人としての自覚を養うとともに、 職員相互の交流を深め連帯意識を醸成し、新しい職場環境への適応と定着化を図る。

(事前信務) 知識・技術の復習 ナーシングスキルの核楚・技術習得

(2回目)

思者の身体所見を観察できる

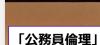
解剖生理が理解できる

この研修は隔年開催の研修です。

今年度も、勝原先生の講義を受けること ができました。

研修の始めに、各自本研修においての ゴール設定をしました。「自分がゴール を設定しておかないと、そこに向かって いかない。ゴール設定はすごく大事。こ んな風になっていたらいいなとイメージ しておくだけでよい。」との言葉があり ました。

ゴールは研修だけではなく、毎日設定す ると良いようです。



講師:公営企業管理局総務課

濱田課長補佐

公務員に求められる倫理を再確認しま した。

#### 「いきいきと看護師としてのキャリアを歩む」



ラダーⅡトライ「フィジカルアセスメントⅠ(基礎編)」

手技テスト中! 頑張っています 講師:各認定看護師 フィジカルアセスメント Ι 研修

集中ケア:中村さん・加藤さん 救急看護:山崎さん・渡部さん 小児救急看護:藤原さん クリティカルケア:越智さん

> 受講生はフィジカルアセスメント Ⅱ(症例編)を受講した先輩から 支援を受けて参加しています。 研修直後から実践に活かせるよう、 講師がマンツーマンで手技確認し、 2日間に分けてシミュレーションを 繰り返し行いました。



「県立病院の役割と経営、病院経営と看護」

講師:公営企業管理職県立病院課

三宅係長

技術確認中!

みんな真剣です(>\_<)

4病院の役割と機能、愛媛県の人口問題、診療報 酬制とDPC・看護必要度などについて学びました。

# キャリアとは(D.HALL 2002)

人の<mark>生涯</mark>にわたり、

仕事に関連した諸処の体験や活動を通して、 個人が自覚し得る態度や行動のつながり

- ・成功や失敗、早い遅いは問わない。プロセス に注目する
- ・評価はその人自身がすべきで、他人がとやか くいうものではない
- ・キャリアには主観的側面と客観的側面がある
- ・仕事に関係した体験の連続であり、プロセス

テーマ: 【自分らしさを大切にしたキャリアを歩むために】 ワールドカフェを行い、各グループ活発なディスカッションが繰り広げ られました。受講生の皆さんはいきいきとした顔でワークに臨まれてお り、研修最初に設定したゴールが達成できたのではないかと思います。

# 2.研修後の看護実践 その①看護研究

# 今治病院



研究者と部署の研究支援者が一丸となり、組織として看護研究に取り組んでいます。看護研究は計画書の作成から実践、論文発表まで2年がかりで大変ですが、部署では『研究支援の継続』が引き継がれています。

時には困難感を感じることもありますが、同じ経験をした研究の先輩が一緒に悩み、考えを整理しながら支援してくれます。 看護の質の向上のために一緒に看護研究にトライしましょう!!





# 支援者より一言

昨年度は、病棟看護長の支援を得て、悩みながらも研究を形にし、県病院学会で発表することができました。やり遂げた時には達成感が得られました。自分の受けた支援や感謝の思いを忘れずに、後輩看護師の研究支援を通して返したいという気持ちで支援に当たっています。



看護長さんも一緒に悩んだり、 助言してくれたりしています

なんでも相談開催中

# 研究者より一言

研究が行き詰まった時には、場が和むような雰囲気を作り、自分の考えを丁寧に聞き、一緒に悩みながら整理してくれました。研究は大変ですが、前向きな気持ちで頑張れたのは支援者の後押しのおかげだと思ってます。この貴重な経験を後輩の支援に活かしていきます。

中央病院

### 「看護研究の基礎」研修の受講生には 病棟支援者が決定されます。病棟支援 者は、研究テーマの絞り込みから研究 発表に至るまで、看護研究の支援を 行っています。

看護研究委員が毎月「看護研究なんでも相談」を実施し、研究を進めていく過程で、悩んでいることに相談にのり、研修の進め方などアドバイスを行っています。なんでも相談には、研究者だけでなく、病棟支援者も参加しています。

# 研究者

昨年の研修中から支援をしてもらっています。自分があまり文章力がなくて、ています。自分があまり文章力がなくて、思っていることが上手くまとめられないときに、支援者さんにみてもらって、話していると繋がった感じになってきました。すごく助かりました。

ごく助かりました。 研究は、自分が気になっていた事例をも とに、もう一度考えてみようと思って取り とに、もので、今後の仕事に活かせると思っ 組んだので、今後の仕事に活かせると思っ ています。

# 病棟支援者

支援をしていて一番困るのは自分の知識不足です。自分の言ったことが結果に影響すると思うととても緊張します。でも、自分も研究のテーマと似たような論文を読んでみたり、どうやってまとめたらいいかと一緒に考えています。研究相談日には毎回2人で参加して、研究委員さんにいただいた助言をもとに、また2人で考えて。やること自体はなんだがすごく楽しかったなと思うんです。



### 令和6年8月5日 院内看護研究発表会を開催しました

# 新居浜病院



研究の準備として中央病院 小児救急看護認定看護師に 来ていただき、学習会を 施してもらいました。病院 を超えた支援があり、心強 かったです。研究の成果が 実践で継続できるように 張りたいです。



少ないデータからどのよう に分析するか悩みましたが、 野本先生のアドバイスで研 究を進めることができまし た。部署のスタッフは、学 習した体位固定の方法を確 実に実施し、撮影やデータ 収集に協力してくれました。

『新生児における有効な腹臥位管理の検討』



『膀胱留置カテーテル抜去後の排尿支援の取り組み 〜排尿アセスメントシートを使った排尿支援の効果〜』

『脳外科患者のベッドアップ開始時期の姿勢の変化』

テーマや方向性が決まるまで不安がありましたが、研究の進め方やデータのカテゴリー化、まとめ方など委員の支援があり最後までやり遂げることができました。今回の研究を通して、看護を振り返る機会になりました。 研究を実施してよかった

です。

まる。 変を振り返 まかった

『人工股関節全置換術後患者の意欲的に 早期離床できる為の介入方法の検討』

-看護研究委員も、研究計画書の作成やその後の研究への取り組みについて支援を行っています!

「外来のリリーフ体制に影響を与えている要因の調査」の看護研究を行いました。

南宇和病院の外来では、4年前からリリーフ体制の構築に取り組んでいますが、なかなか自立して担当できる診療科が増えない現状でした。研究でアンケート調査を実施した結果、90%以上のスタッフが慣れない科へのリリーフに不安やストレスを抱えながら行っていました。そのため、当初は、外来スタッフがリリーフ体制にマイナスのイメージを持ち、リリーフ部署が増えない要因になっていると思っていましたが、約半数以上のスタッフがリリーフ体制の必要性を理解し、不安を抱きながらも前向きに取り組んでいることが明らかとなりました。研究を行ったことで、良い意味で思っていた結果と違っており、外来全体で協力体制の意識を持ち、引き続きリリーフ体制に取り組めています。





研究委員や部署だけでなく、看護部長や副部長も研究の支援を行っています。

# 3.下半期研修のご案内

| 10月||日(金) ラダーⅢトライ「セルフマネジメント」 | 10月28日(月) ラダーⅣトライ「マネジメントⅡ」

||月||4日(木)ラダーⅢトライ「看護倫理Ⅱ」

12月12日(木)・13日(金)「災害研修」(公開研修)

聴講もお待ちしています!

#### 【編集後記】

朝晩秋らしくなってきましたね。 日頃より研修活動にご協力いただ。 き感謝いたします。

これまで多くの研修が開催されていますが、研修は受けて終わりではなく、実践してこそ受講した意味があります。学びをひとつでも実践に活かしてくださいね。

愛媛県立病院看護職員研修新聞 第20巻第2号 2024年9月発行 連絡先:愛媛県立中央病院

合同研修担当看護長 毛利友香電話:089-947-1111(代表)

